

【問題】

患者：66歳男性.

既往歴：平成17年に他院で食道潰瘍と診断された既往があるとのことだが、詳細は不明.

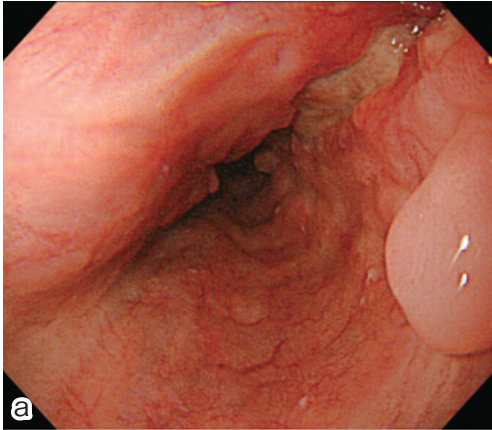
現病歴：平成19年4月頃から食事摂取時の咳こみと嚥下時違和感があり、近医受診、全身検査中に脳腫瘍が発見され、同年6月脳腫瘍手術施行. 手術後も咳嗽発作が持続するために呼吸器科にて経過観察されていたが、平成20年6月のPETにて食道に異常を認め当科紹介となった.

当科初診時の内視鏡検査では切歯列から30～35cmにFigure 1のような不正形の深い潰瘍が認められたが、検査中に咳嗽が増強し詳細な観察は困難であった. 潰瘍部からの生検では悪性所見や

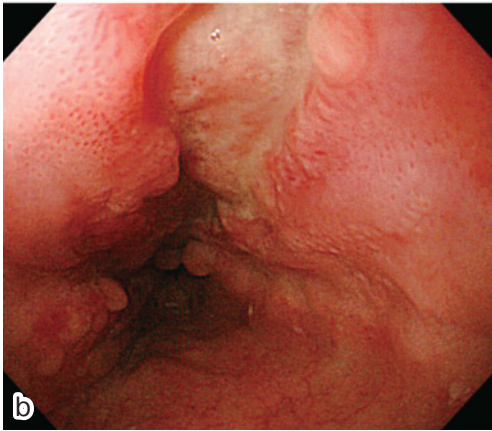
特異的な病理像はみられなかった. 逆流性食道炎による食道潰瘍を疑いPPIを投与し1カ月後に再検したが潰瘍の改善はみられず、PPI倍量投与にて経過観察としたが、倍量投与1カ月後の内視鏡検査でも潰瘍の治癒は得られなかった (Figure 2). この間も水分などの摂取でも咳嗽発作が繰り返されていた.

本症例の咳嗽発作と食道潰瘍の関連は？

解答は日本消化器病学会雑誌106巻5号をご覧ください



a



b

Figure 1.

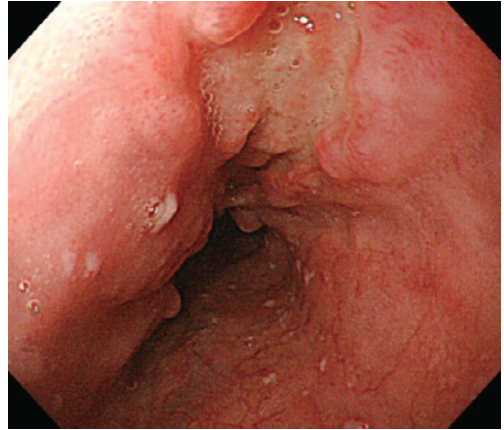


Figure 2.